

一般社団法人 人文地理学会
2024年 定時社員総会 【資料】 確定版

日時：2024年11月23日（土） 16時45分～17時40分
会場：近畿大学 東大阪キャンパス 3号館5階3-501

開会宣言

代議員一覧 …………… 1ページ

定足数確認

議長選任

議事録署名人選出

議 事：

<報告事項>

1. 2023/24年度 事業報告 …………… 2～14ページ
2. 2024/25年度 事業計画 …………… 15ページ
3. 2024/25年度 収支予算 …………… 16ページ
4. その他

<審議事項>

1. 2023/24年度 決算 …………… 17～21ページ
2. 2024年～2026年 理事・監事選任… 22～23ページ
3. その他

閉会宣言

議長解任

* 定時社員総会は会員総会を兼ねています。定時社員総会終了後、
第24回人文地理学会学会賞受賞者の表彰式が行われます。

一般社団法人人文地理学会 代議員

(任期：2024年10月1日～2026年9月30日)

阿部 亮吾	川田 力	塚本 章宏	二村 太郎
網島 聖	神田 孝治	土屋 純	堀 健彦
新井 祥穂	菊池 達夫	筒井 一伸	前田 洋介
荒又 美陽	久木元 美琴	筒井 由起乃	松井 圭介
安藤 哲郎	倉光 ミナ子	堤 純	松宮 邑子
井口 梓	鋏塚 賢太郎	椿 真智子	武者 忠彦
池口 明子	小泉 諒	寺床 幸雄	森 正人
池田 真利子	小原 丈明	戸所 隆	森田 匡俊
井田 仁康	米家 泰作	豊田 哲也	森本 泉
市川 康夫	酒井 多加志	中川 秀一	安倉 良二
伊藤 健司	作野 広和	中澤 高志	矢野 桂司
伊藤 貴啓	佐藤 廉也	中島 弘二	山内 昌和
伊藤 千尋	澤 宗則	中村 周作	山神 達也
稲垣 稜	柴田 陽一	中谷 友樹	山口 覚
今里 悟之	島津 俊之	西村 雄一郎	山下 博樹
上杉 和央	清水 克志	丹羽 孝仁	山田 浩久
牛垣 雄矢	志村 喬	野中 健一	山近 久美子
大城 直樹	杉江 あい	橋本 雄一	山元 貴継
大呂 興平	関村 オリエ	花木 宏直	由井 義通
岡本 耕平	祖田 亮次	林 紀代美	横山 智
小田 匡保	外戸保 大介	原口 剛	吉田 国光
遠城 明雄	高木 彰彦	半澤 誠司	吉田 容子
香川 貴志	竹中 克行	福田 珠己	吉水 裕也
梶田 真	橋 セツ	福本 拓	
片岡 博美	立見 淳哉	藤岡 悠一郎	
鎌倉 夏来	田原 裕子	藤塚 吉浩	

以上 101 名
50 音順

代議員選挙は、2024年7月9日に投票用紙発送、8月1日に投票締切、8月5日に開票が行われた。代議員は、当選者・次点者のうち就任を受諾した100名に、「一般社団法人 人文地理学会 会長選出に関する規程」第6条2項の規定に基づいて会長候補者を加えた101名である。

<報告事項>

1. 2023/24 年度 事業報告

1. 庶務委員会 (吉田容子 常任理事)

① 会員の動向 (2024年9月30日現在)

年 度	2016	2017	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24
会 員	1,220	1,221	1,165	1,164	1,122	1,136	1,109	1,119 国内 1,113, 海外 6
団体会員	144	144	140	137	137	137	134	134
(学生)	(164)	(140)	(130)	(125)	(116)	(118)	(110)	(114)
入 会	36	33	32	31	28	39	38	40
(学生)	(21)	(22)	(20)	(20)	(14)	(22)	(26)	(28)
退 会	22	33	40	37	24	30	38	24
(学生)		(7)	(4)	(8)	(4)	(3)	(4)	(3)
資格喪失	—	54	—	39	—	29	—	36

*資格喪失は隔年(名簿発行年)

② 交換・寄贈雑誌 (2024年9月30日現在)

国内交換雑誌 42誌 海外交換雑誌 9誌

③ 2023/24 年度 社員総会・常任理事会・理事会の開催

社員総会 (1回)

常任理事会 (定例5回)

理事会 [5回: 10月14日(対面+オンライン), 12月16日(対面+オンライン),
4月6日(対面+オンライン), 7月6日(対面+オンライン),
9月21日(対面+オンライン)]

④ 人文地理学会記念事業

人文地理学会創立75周年記念祝賀懇親会を開催した。

2023年12月16日(土) 於: 都ホテル京都八条 参加者: 44名

2. 会計委員会 (加藤政洋 常任理事)

① 会費納入状況 (2024年9月30日現在)

会員数(個人) 1,119名(うち, 海外会員6名)

○ (国内) 会員 1,113名

第76巻まで完納: 862名(永年会員74名含む 納入率77%)

第75巻まで納入(1年未納): 178名(うち, 住所不明2)

第74巻まで納入（2年未納）：42名（うち、住所不明1）

第73巻まで納入（3年未納）：20名（うち、住所不明9）

第72巻まで納入（4年未納）：16名（うち、住所不明9）

○海外会員 6名

（うち、1名は永年会員，2名は第76巻まで完納）

○永年会員 74名

（2023/2024年度中の移行者9名）

② 研究部会会計報告

（2024年9月30日現在，単位：円）

研究部会	予算	支出	残高
歴史地理	80,000	46,982	33,018
地理思想	80,000	30,880	49,120
都市圏	80,000	5,000	75,000
地理教育	80,000	39,900	40,100
観光空間	80,000	45,000	35,000

③ 国際地理オリンピックへの寄付

10万円を寄付した。

3. 編集委員会（藤井 正 常任理事）

① 定期刊行の実現

会誌『人文地理』は，第75巻第3号より第76巻第2号まで，定期刊行を実現した。

② 会誌編集状況

別紙参照

4. 集会委員会（河原典史 常任理事）

① 大会

1) 2023年 人文地理学会大会

法政大学 市ヶ谷キャンパス 2023年11月25日（土）～27日（月）

- ・大会参加者：282名（会員：事前151名・当日108名，非会員：23名）
- ・発表数：63件（特別研究発表：4件，一般研究発表：59件（口頭：42件，ポスター7件（1件発表中止），公募セッション：3組10件）
- ・研究部会アワー：5件
- ・特別研究発表：SP11：118名，SP12：127名，SP21：85名，SP22：43名
- ・エクスカーション参加者：18名（うちスタッフ3名）
- ・懇親会参加者：120名
- ・書籍出展企業（団体）：4件

2) 2024年 人文地理学会大会

- ・11月23日（土・祝）～24日（日） 近畿大学 東大阪キャンパス
- ・学会ウェブサイトから告知するメーリングリストに登録後，**Google Forms**により参加登録（大会参加費は事前振り込み）
- ・『2024年人文地理学会大会研究発表要旨』は冊子体を作成
- ・保育ルームの開設
- ・「若手のためのランチミーティング」を企画
 - 11月23日（土） 午前 エクスカーション
 - 午後 特別研究発表 4件，一般研究発表（ポスター発表 7件），定時社員総会（会員総会），学会賞授賞式，懇親会
 - 11月24日（日） 午前・午後 一般研究発表 43件（口頭発表 35件，ポスター発表 7件）
 - 午後 研究部会アワー5件

② 例会

第296回（特別例会）鹿児島大学 郡元キャンパス稲盛会館

2024年6月29日（土）シンポジウム

テーマ「九州新幹線部分開業20年—新幹線と沿線地域の変化—」

講演：1件，個別報告：4件，参加者：59名，懇親会参加者：32名

6月30日（日）バス・エクスカーション

参加者：28名

③ 研究部会

1) 歴史地理研究部会

第162回 2023年11月25日 法政大学（部会アワー） 参加者：27名

2) 地理思想研究部会

第146回 2023年11月25日 法政大学（部会アワー） 参加者：30名

- 第 147 回 2024 年 3 月 24 日 明治大学駿河台キャンパス
参加者：22 名（うち、オンライン 7 名）
- 第 148 回 2024 年 5 月 26 日 大阪公立大学 I-site なんば
参加者：19 名（うち、オンライン 10 名）
- 第 149 回 2024 年 6 月 16 日 関西学院大学大阪梅田キャンパス K.G. ハブスクエア
参加者：39 名（うち、オンライン 18 名）

3) 都市圏研究部会

- 第 70 回 2023 年 11 月 25 日 法政大学（部会アワー） 参加者：20 名

4) 地理教育研究部会

- 第 56 回 2024 年 11 月 25 日 法政大学（部会アワー）
参加者：50 名（うち、オンライン 25 名）
- 第 57 回（共催：地域地理科学会瀬戸内部会） 2024 年 2 月 3 日 岡山県玉野市
参加者：39 名
- 第 58 回 2024 年 8 月 6 日 奈良女子大学附属中等教育学校 参加者：31 名

5) 観光空間研究部会

- 第 6 回 2023 年 11 月 25 日 法政大学（部会アワー） 参加者：17 名
- 第 7 回 2024 年 6 月 9 日 オンライン部会 参加者：29 名
- 第 8 回 2024 年 8 月 4 日 オンライン部会 参加者：32 名

④ 2025 年の大会と例会（特別例会）の予定

1) 2025 年大会

2025 年 11 月 15 日（土）～16 日（日） 同志社女子大学 今出川キャンパス

2) 第 297 回例会（特別例会）

2025 年 6 月 28 日（土）～29 日（日） 北海道札幌市（開催幹事校・北翔大学）

5. 企画委員会（山崎孝史 常任理事）

① 第 24 回人文地理学会 学会賞

- ・2023 年 12 月に学会賞候補者選考委員会委員を以下の通り委嘱した。 ※印は委員長
[学術図書部門・学術図書部門奨励賞]

新井祥穂（東京農工大・継続）※，森 正人（三重大・継続）

長尾謙吉（専修大・新規），服部亜由未（愛知県大・新規）

[一般図書部門]

祖田亮次（大阪公立大・継続）※，筒井由起乃（追手門大・継続）

大城直樹（明治大・新規），矢部直人（東京都立大・新規）

[論文部門]

大呂興平（現大阪大・継続）※，関村オリエ（東京女大・継続）
平 篤志（香川大・新規），杉江あい（京都大・新規）

- ・2024年3月に各部門の学会賞候補者選考委員会はオンラインで第1回会議を開催し，9月7日締切の答申までの選考手順について意見交換がなされた後，具体的に選考過程に入った。
- ・2024年9月7日までに各部門の学会賞候補者選考委員会から受賞候補者について答申があり，2024年9月21日の第4回理事会で承認された。受賞者および受賞対象図書・論文は以下の通りである。

[学術図書部門]

受賞者：三木理史

受賞対象図書：『満鉄輸送史の研究』塙書房，2023年，419頁。

[学術図書部門奨励賞]

受賞者：申 知燕

受賞対象図書：『トランスナショナルな移住と多元化するエスニック空間 ニューヨーク・ロンドン・東京における韓人コミュニティ』古今書院，2023年，214頁。

[一般図書部門]

受賞者：若林芳樹

受賞対象図書：『デジタル社会の地図の読み方 作り方』筑摩書房（ちくまプリマー新書），2022年，207頁。

[論文部門]

受賞者：竹内 祥一郎

受賞対象論文：「大阪府中河内郡堅下村における高級葡萄生産の実現過程—明治期の篤農家の実践に着目して—」『人文地理』第75巻第1号，2023年，3-24頁。

② 地理学連携機構関連

- ・2024年3月18日に第15回 地理学連携機構・地理関連学会連合・人文・経済地理関連学会協議会の合同総会が青山学院大学で開催され，機構ならびに関係学協会の活動が報告されるとともに，2024年度の機構の活動方針が審議・了承された。2024年度の人文地理学会関係の機構委員としては，地理学連携機構代表に矢野桂司会長，幹事に山崎孝史企画常任理事が就任しており，機構の事務局は2024年4月から人文地理学会が担当している。なお，人文・経済地理関連学会協議会副議長に山崎企画常任理事が就任している。

③ 若手研究者国際会議派遣助成

- ・2023年12月に若手研究者国際会議派遣助成選考委員会委員を以下の通り委嘱した。

※印は委員長

影山穂波※（椋山女学園大・留任3年目）

池口明子（横浜国立大・留任2年目）

中谷友樹（東北大・新任）

- ・同年10月に公募が開始され、2024年2月の締切までに6名の応募があり、選考委員会にて審議され、その答申は2024年4月6日の第2回理事会で承認された。助成採択者の発表タイトル・研究集会名は以下の通りである。

陳 乙萱 会員

発表タイトル：Transformation of Manchu shamanism under China's Green Development.

助成対象会議：The 35th International Geographical Congress, Dublin 2024.

開催地：ダブリン・シティ大学（アイルランド・ダブリン）

開催期間：2024年8月24日～30日

矢ヶ崎 太洋 会員

発表タイトル：Japanese ghost tourism: Haunted-spot pilgrimage tours by taxi drivers in Yokohama

助成対象会議：The 35th International Geographical Congress, Dublin 2024.

開催地：ダブリン・シティ大学（アイルランド・ダブリン）

開催期間：2024年8月24日～30日

末永 芽久 会員

発表タイトル：Wild edible resources incorporated into circular economy: A case study focusing on the Tsukechi Valley, Central Japan

助成対象会議：The 35th International Geographical Congress, Dublin 2024.

開催地：ダブリン・シティ大学（アイルランド・ダブリン）

開催期間：2024年8月24日～30日

6. 広報委員会（山崎孝史 常任理事）

① 学会ウェブサイトの運営

- ・学会の大会・例会・研究部会などの活動や、他学会などからの公募やセミナーなどの情報を、学会ウェブサイトを通して会員および社会に公開した。

- ・サイトコンテンツを管理するシステム（WordPress）がこれまで十分に更新されておらず、ブラウザアプリによっては円滑なファイルダウンロードができなかったり、セキュリティ上の脆弱性も高まっていたりしたので、システム更新と共にセキュリティレベルの根本的改善を実施した。
- ・関連して、サイト更新に関する技術的手順を示したマニュアルが整備されておらず、今後の運営に支障がないよう、必要な手順（固定ページ増設）を記した新たなマニュアルを作成した。
- ・これらの改善に相応の予算が必要であったが、学会会計より特別に予算措置を受けた。
- ・固定ページの増設が技術的に可能となった結果、英文の倫理規定や投稿規定のページを新たに設置した。

② 学会メーリングリストの運営

- ・原則的に新規入会者でメールアドレスを通知した会員は全てメーリングリストに登録している。
- ・①で実施したサイトセキュリティの改善に伴い、メーリングリストの配信されなかった会員にも原則的に配信が可能となった。
- ・①において公開された集会関連情報ほか、登録会員に周知すべき情報を迅速に伝えられるようメーリングリストを管理運営した。

③ その他の広報活動

- ・現時点では、大会を中心とする集会開催、学会動向、関連他学会の活動などを、学会ウェブサイトならびに学会メーリングリストを通して、積極的かつ迅速に会員・社会に広報するよう努めている。ソーシャルメディアなどの活用については今後検討していく予定である。

2023/24 年度 編集委員会 補足資料

1) 2023/24 年度編集会議の実施状況

・ Zoom によるオンライン会議

第1回会議 (1/6), 第2回会議 (3/16), 臨時会議 (4/16 - 24 メール審議),
第3回会議 (5/11), 第4回会議 (学界展望合評会, 6/8), 第5回会議 (7/6),
第6回会議 (9/7), 第7回会議 (11/9 予定)

2) 『人文地理学会大会研究発表要旨』の編集

- ・ 2020年に導入された閲読制を引きつぎ, 大会研究発表要旨の受付後入稿までの間に, 集会委員と編集委員 (大会実行委員) で分担して, 主に形式上のチェックを行っている。
- ・ J-STAGEについては, 大会終了後に登載作業に入る予定。

3) 国際化の対応

- ・ 2021/22 年度から引き続き, Elsevier 社 (Scopus) と Clarivate Analytics 社 (ESCI) との継続的な窓口役 (コレスポンデント) を島津俊之会員に依頼している。コレスポンデントが公的に利用できるメールアドレスを作成し, 今期は次の事業を行った。
- ・ Clarivate Analytics 社 (web of science) の収録審査が第2段階でリジェクトされ再申請の連絡 (2023 年 3 月 1 日) を受け, 指摘された点への対応をすすめるためタスクフォースを昨期に設置し, 編集倫理規程 (日本語版・英語版) の昨期の作成につづき, ウェブサイトの整備 (学会ウェブサイトと J-STAGE とのリンクの充実) を収録再審査の申請にむけて進めた。

2023/24年度 編集委員会事業報告(別紙)

『人文地理』編集状況

	11/11	1/6	3/16	5/11	7/6	9/7	合計	2023/24	2022/23	2021/22	2020/21	2019/20	2018/19	2017	2016
論説 新規	2	1	4	3	0	1	11	14	16	15	22	23	31	18	23
論説 再投稿	0	0	0	1	1	1	3								
展望 新規	0	0	0	0	0	0	0	1	4	1	2	5	1	0	1
展望 再投稿	1	0	0	0	0	0	1								
研究ノート 新規	1	2	0	1	1	1	6	12	19	30	19	22	14	14	28
研究ノート 再投稿	0	1	1	2	1	1	6								
フォーカス 新規	0	0	0	1	0	0	1	2	0	1	3	7	3	1	6
フォーカス 再投稿	0	0	0	0	1	0	1								
合計	4	4	5	8	4	4	29	29	39	47	46	57	49	33	58
論説 受理	0	0	0	0	1	0	1	1	2	2	6	4	5	4	5
論説 要再投稿	0	0	1	2	0	1	4	4	2	6	11	15	23	9	11
論説 返却	2	1	3	2	0	1	9	9	12	7	5	4	3	5	7
展望 受理	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	0	0	1
展望 要再投稿	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	3	0	0	0
展望 返却	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0
研究ノート 受理	0	0	0	1	0	1	2	2	6	6	3	5	2	5	6
研究ノート 要再投稿	1	3	1	2	2	1	10	10	8	13	15	15	7	5	18
研究ノート 返却	0	0	0	0	0	0	0	0	5	11	1	2	5	4	4
フォーカス 受理	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	1	2	1	0	2
フォーカス 要再投稿	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	5	1	0	3
フォーカス 返却	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	1
合計	4	4	5	8	4	4	29	29	39	47	46	57	49	33	58

- ・原稿種別変更における再投稿の場合、当初種別では「返却」、再投稿時の種別では「新規」として計上した。
- ・副査は概ね編集委員以外の会員に依頼した。
- ・2024年4月のメールによる臨時編集会議（ノートの投稿1本で受理1本）の審議結果は5月の編集会議と合算した。
また、2024年6月編集会議（フォーカスの投稿1本で受理1本）の審議結果は7月の編集会議と合算した。
- ・2023/24年度の年間投稿数は29本で、前年よりさらに減少している。種別でみると研究ノートへの投稿が少なくなっている。
この結果、受理した論文数は、前々年8本、前年9本に対して5本にとどまった。

『人文地理』論文受理・返却率

	2023/24	2022/23	2021/22	2020/21	2019/20	2018/19	2017	2016		2023/24	2022/23	2021/22	2020/21	2019/20
論説受理率	7.1%	12.5%	13.3%	27.3%	17.4%	16.1%	22.2%	21.7%	論説返却率	64.3%	75.0%	46.7%	22.7%	17.4%
展望受理率	100.0%	25.0%	0.0%	50.0%	20.0%	0.0%	—	100.0%	展望返却率	0.0%	25.0%	100.0%	0.0%	20.0%
研究ノート受理率	16.7%	31.6%	20.0%	15.8%	22.7%	14.3%	35.7%	21.4%	研究ノート返却率	0.0%	26.3%	36.7%	5.3%	9.1%
フォーカス受理率	50.0%	0.0%	0.0%	33.3%	28.6%	33.3%	0.0%	33.3%	フォーカス返却率	0.0%	0.0%	100.0%	33.3%	0.0%
全体受理率	17.2%	23.1%	17.0%	23.9%	21.1%	16.3%	27.3%	24.1%	全体返却率	31.0%	46.2%	42.6%	15.2%	12.3%

- ・2023/24年度は前年度よりも論説と研究ノートの受理率、返却率ともに低下し、要再投稿論文が増えている。

『人文地理』各号発行状況

	総頁数	論説	展望	研究ノート	フォーカス	書評	その他
75巻3号	175	0	128	23	0	0	24
75巻4号	94	0	24	23	0	8	39
76巻1号	90	0	25	21	0	8	36
76巻2号	62	0	0	20	17	18	7
2023/24年度合計	421	0	177	87	17	34	106
2022/23年度合計	489	45	134	142	0	52	116
2021/22年度合計	476	95	141	82	0	58	100
2020/21年度合計	501	96	110	104	38	54	99
2019/20年度合計	450	134	69	35	32	38	139
2018/19年度合計	460	110	67	67	0	82	134
2017年度合計	563	115	69	155	32	36	156
2016年度合計	534	188	96	54	16	38	142

- ※オンライン会議に移行
- ※書評多数
- ※70周年記念特集+書評多数
- ※英文特集

- ・2023/24年度の総頁数は421ページで、例年より論文約2本分少ない。
- ・2023/24年度の集計期間での論説掲載はできなかったが、展望論文は2本掲載している。また、上記のようにその後に論説を受理している。

第 24 回人文地理学会学会賞候補者選考委員会からの答申

[学術図書部門]

2024年9月7日

一般社団法人 人文地理学会長 矢野桂司 殿

第 24 回人文地理学会学会賞（学術図書部門）候補者選考委員会
委員長 新井祥穂
委員 長尾謙吉, 服部亜由未, 森 正人

本委員会は、第 24 回人文地理学会学会賞（学術図書部門）候補者として下記の会員に決定したので、選考理由を付して以下のとおり答申する。

記

受賞候補者：三木理史

受賞対象図書：『満鉄輸送史の研究』塙書房，2023年，419頁。

選考理由：

本書は輸送機関としての南満州鉄道株式会社（満鉄）の解明を、満州事変を画期とした変化に注目しながら、詳細かつ明瞭な問題意識を持って論じた研究書である。

全体は序論、第一部、第二部、終章で構成される。序論で著者は、満鉄の既存研究が論調としてはこれを植民地機関として性格規定し、輸送実態に関わる研究が欠落してきたと主張する。そこに、本書の分析視角—特産物、石炭、旅客輸送の、満州事変の前後での変化—を、章構成とともに示す第1章、国鉄や大手民鉄との比較も交えながら満鉄の輸送事業を大観する第2章が続く。

第一部では、満州事変以前の輸送実態を展開する。鉄道輸送と地域経済動向に強く関連した、満州産大豆輸送の大連集中（第3章）、石炭輸送の重要性の高まり（第4章）、漢人出稼者輸送の実態（第5章）などが、通説を批判する形で述べられる。第二部ではこれらが、満州事変以後と対比される。大豆輸出の減退、かわって増加した小麦ほか農産物の局地的流通（第6章）、偏在する鉱業や産出炭の地場消費（第7章）などにより、貨物輸送構造は大きく変化しなかったのに対し、旅客（第8章）では漢人労工の増減、日本人利用の増加とその限界、さらに軍隊移動など、変化が目立つ。軍事輸送を検討した第9章では、路線建設における戦略性、内地との連絡変化に伴う安奉線の重要性、奉天を中心とした輸送への転換が指摘される。

終章では以上の内容要約とともに、本書の含意が、植民地の型をめぐる議論として再規定される。満州はその初期は「移住型植民地」として出発し、そこからの変化もみられたが、満州事変後も依然として「移住型」の特徴を示したのであり、もう一つの型「搾取投資型」へ移行したのではない、と結論づける。

輸送事業の実態解明という序論での宣言通り、本書は、全編にわたり膨大な数値資料に依拠し、モノとヒトの移動現象、その背後にある権力を、高い実証性をもって示す。さらにはそれら知見を、著者が従前から論じてきた植民地の型認識へと展開させるなど、学術的意義が高い。

また、本書を構成する章の多くが査読論文として公表された点も、高く評価される。経験豊かな研究者が緊張感もちつつ執り行った、系統だった情報蒐集とその丹念な解釈の意義を、改めて認識させる書である。

以上、本書は人文地理学会学会賞（学術図書部門）の授与にふさわしい優れた著作であり、著者をその候補者として推薦する。

[学術図書部門奨励賞]

2024年9月7日

一般社団法人 人文地理学会長 矢野桂司 殿

第24回人文地理学会学会賞（学術図書部門）候補者選考委員会
委員長 新井祥穂
委員 長尾謙吉，服部亜由未，森 正人

本委員会は、第24回人文地理学会学会賞（学術図書部門奨励賞）候補者として下記の会員に決定したので、選考理由を付して以下のとおり答申する。

記

受賞候補者：申 知燕

受賞対象図書：『トランスナショナルな移住と多元化するエスニック空間 ニューヨーク・ロンドン・東京における韓人コミュニティ』古今書院，2023年，214頁。

選考理由：

本書は、質的变化を経た国際移住—トランスナショナルな移住—と、グローバルシティにおける空間構造との連関を、韓人移住者に焦点を当てて論じた研究書である。

全体は8章で構成され、第1章では、多様化する国際移住とそれに伴う都市の空間構造の変容が、従来のアプローチでは上手く捉えられないという、本書を貫く問題意識が開示される。第2章で、国際移住に関する先行研究に潜む想定—低賃金労働者，受入国労働市場の二重性，送出国経済の停滞—と、多様化する実態との乖離を説く。第3章では、送出国韓国の経済成長過程とその国際移住の性格変化を示す。

続く事例研究では、新旧移住者の行動様式の違いが示される。ニューヨーク（第4章）では、非熟練労働・韓人による集住・コリアタウンへの全般的依存という旧期移住者に対し、キャリア形成を重視し母国との間を往来する新期移住者は、通勤通学の利便性の高い居住地を選択し、コリアタウンに頼る機能も一面的と描写する。ロンドン（第5章）の新期移住者の特徴もニューヨークと共通するほか、教育施設へのアクセスに影響された居住地選択、他グローバルシティへの移住などの傾向を析出する。第6章、東京の事例でも新期移住者には集住傾向がみられない。3都市に共通して新期移住者は、頻繁な往来や連絡を通じて母国との関係性を維持強化し、そのことが受入国コリアタウンの機能変化や縮小を促す。

第7章では、物理的距離の制約を離れてエスニック情報を補完できるオンライン空間を、移住者が積極的に利用し、これが従来の集住地機能の一部を分担していると解釈する。全体の総括である第8章では、以上の知見が、国際移住研究ならびにグローバルシティ内部構造研究への批判的検討として整理される。

トランスナショナルな新期移住者、およびエスニック空間の多様化／多元化を報告した本書は、多数の韓人移住者への丹念なインタビューと統計等より接近し、移住者のライフコースや価値観、都市空間における集住地の機能を鮮やかに描き出し、既存研究を乗り越える論点を提起している。またオンライン空間の意義等、論証しにくい題材に対しても有効な材料を提出する。本研究の先に、新自由主義の深化のものとトランスナショナルな移住の変容など、新旧移住者比較にとどまらないテーマも展望しえよう。

以上、本書は人文地理学会学会賞（学術図書部門奨励賞）の授与にふさわしい優れた著作であり、著者をその候補者として推薦する。

[一般図書部門]

2024年9月7日

一般社団法人 人文地理学会長 矢野桂司 殿

第24回人文地理学会学会賞（一般図書部門）候補者選考委員会
委員長 祖田亮次
委員 筒井由起乃、大城直樹、矢部直人

本委員会は、第24回人文地理学会学会賞（一般図書部門）候補者として下記の会員に決定したので、選考理由を付して以下のとおり答申する。

記

受賞候補者：若林芳樹

受賞対象図書：『デジタル社会の地図の読み方 作り方』筑摩書房（ちくまプリマー新書），2022年，207頁。

選考理由：

さまざまな分野で進むデジタル化は地図の世界にも起こっており、デジタル地図はもはや日常的なツールとなっている。本書は、デジタル化によって多くの人が地図に関わるようになった状況を踏まえて、地図を読んだり作ったりするリテラシー（活用能力）を一般向けに分かりやすく伝える入門書である。従来の地図学関係図書では「一般図」を中心に扱うことが多かったが、本書は豊富な「主題図」を事例に説明がなされており、一般読者にとっても馴染みやすく、GISの「いろは」を伝えるうえで効果的なものとなっている。

本書は、「つなぐ」をキーワードとして全体がまとめられている。導入の第1章「地図でつながる人と世界」、地図作成の舞台裏を紹介する第2章「作り手と世界をつなぐ」、読図のリテラシーをまとめた第3章「読み手と世界をつなぐ」、IT時代の地図を使いこなすための第4章「アナログとデジタルをつなぐ」、地図の応用可能性と主体的な空間的思考を促す第5章「課題解決につながる地図」という構成は、一般読者にも理解しやすい。また、前半部分での地図一般の話からデジタル化された地図の世界（GIS）へと話が展開していく中で、地図作成に含まれる「嘘」についても丁寧に説明がなされており、地図が持つ功罪両面をきちんと指摘している点で、著者の慎重な態度もうかがうことができ、バランスの取れた構成といえる。本書は、地理学だけでなく、心理学や社会学など他分野の成果も踏まえて地図について説明しており、また、Covid-19やハザードマップなど、近年話題となっている事例を扱っていることや、随所で図の出典や参考資料をたどる楽しさを提供していることも、幅広い一般読者の関心をひきつける工夫として、高く評価できる。

高等学校の「地理総合」必修化に伴い、地図やGISに関する単元学習が重視されつつあるなか、時宜を得た出版であり、著者の長年の研究をもとに、現代における地図の多様性・複雑性を分かりやすく解説したことの意義は非常に大きいといえる。

以上の理由から、本書を、人文地理学会賞（一般図書部門）を授与するに値するものとして推薦する。

[論文部門]

2024年9月7日

一般社団法人 人文地理学会長 矢野桂司 殿

第24回人文地理学会学会賞（論文部門）候補者選考委員会
委員長 大呂興平
委員 杉江あい, 関村オリエ, 平 篤志

本委員会は、第24回人文地理学会学会賞（論文部門）候補者として下記の会員に決定したので、選考理由を付して以下のとおり答申する。

記

受賞候補者：竹内祥一朗

受賞対象論文：「大阪府中河内郡堅下村における高級葡萄生産の実現過程—明治期の篤農家の実践に着目して—」『人文地理』第75巻第1号，2023年，3-24頁。

選考理由：

本論文は、近代日本の大都市近郊地域で展開した高級葡萄産地の生成過程を、葡萄栽培を主導した篤農家の実践に焦点を当て、当時の地域資料や篤農家の日記などに拠りながら詳細に明らかにしたものである。本論文では、まず、過去の統計や文書資料、旧地形図などを用いて、年間経費、生産額、作付面積など、当時の全国の葡萄産地や堅下村周辺における農業の現状や変化に対する緻密な検討がなされる。そのうえで、篤農家である山崎家の日記をもとにして、葡萄生産や流通にかかわる山崎家の実践や周囲の人びととの「顔の見える」関係が詳細に跡づけられる。具体的には、栽培をめぐる技術交流や金銭の貸与、価格の交渉など、篤農家が有する地域内外の社会関係を通じて生産や流通、販売のあり方が変革されていった過程が豊かに描かれている。このように、過去の統計や歴史文書等に拠る地域レベルの分析と、日記に拠る一事業家におけるミクロレベルの分析を重ね合わせることによって、本論文では、明治期以降の葡萄産地における生産拡大の実現過程を、実証的でありつつも、リアリティ豊かに動的に説明することに成功しており、オリジナリティの高い読みごたえのある論文として高く評価できるものとなっている。

本論文の課題としては、立論の根幹をなす山崎家の日記に対する史料批判が、十分になされていない点がある。資料の制約から一部の農家の実践のみしか扱えないことは当然のこととしても、山崎家の日記を取り上げることのバイアスや限界については議論が必要であったと考えられる。また、近代日本の特産物や地場産業の振興において地域の篤農家や名望家が主導的な役割を果たしたことは、歴史地理学はもとより経済史などでも知られていることである。本論文には、篤農家に着目して高級葡萄生産の展開を明らかにしたという以上の社会的・学術的意義について、より自覚的に表明する余地があったように感じられる。

しかし、以上の不足をもってしても、本論文は、過去の地域資料を丹念に読み解くとともに、日記などに拠り特定の主体の行動を丁寧に掘り下げることで、過去に地域に生じた経済現象の動態を重層的に描き直すことの可能性を示すものとなっている。その点でも本論文は、歴史地理学のみならず、経済地理学や農業地理学などにも大きな学術的貢献をなすものと期待される。よって、本論文を、人文地理学会賞（論文部門）の授与にふさわしい論文として、推薦する。

2. 2024/25 年度 事業計画

2024.11.定時社員総会

月	理事会	大会	編集	例会・部会	他学会	前年度
2024年 10月	5: 常任理事会⑤ 12: 理事会⑥		76巻3号発行		26-27: GIS学会大会(京都大学治キャンパス)	7: 常任理事会 14: 理事会 14-15: 経済地理学会地域大会(愛媛大南加記念ホール) 21-22: 地理教育(共催 全国地理教育学会) 大阪商大 21-22: 東北地理学会大会(秋田大) 28-29: GIS学会大会(電気通信大)
11月	24: 理事会①	23-24: 大会(近畿大)	9: 第7回	24: 大会部会アワー	3-4: 東北地理学会(山形大小白川キャンパス) 3: 全国地理教育学会大会(専修大学神田校舎) 9: 経済地理学会地域大会(武蔵野地域大会)成蹊大 11: 地理科学学会大会(県立広島大サテライトキャンパスひろしま)	11: 編集委 25: 地理科学学会大会(広島大) 25-27: 大会(法政大)
12月	7: 常任理事会① 14: 理事会②		76巻4号発行	8: 地理教育(共催 兵庫地理学協会) 灘中・高校		9: 常任理事会 16: 理事会 16: 学会創立75周年祝賀懇親会(都ホテル京都八条)
2025年 1月		●: 大会準備委(第1回)	11: 第1回			6: 編集委 27: 大会準備委
2月						3: 地理教育(共催 地域地理科学会) 玉野産業振興ビル
3月	29: 常任理事会②		8: 第2回		19-21: 日本地理学会大会(駒沢大駒沢キャンパス)	16: 編集委 18: 地理学連携機構合同総会(青山学院大) 19-21: 日本地理学会大会(青山学院大) 24: 地理思想(明治大駿河台キャンパス/ハイブリッド) 30: 常任理事会
4月	5: 理事会③		77巻1号発行			6: 理事会
5月			10: 第3回		17-19: 経済地理学会大会(愛知大名古屋キャンパス)	11: 編集委 18-19: 東北地理学会大会(東北大青葉山新キャンパス) 24-27: 経済地理学会大会(東北学院大土樋キャンパス) 25-27: 歴史地理学会大会(立命館大) 26: 地理思想(大阪公立大 I-siteなんば/ハイブリッド)
6月	28: 常任理事会③		7: 第4回(合評会) 77巻2号発行	28-29: 特別例会(北海道・札幌市)	21: 日本地理学会百周年記念式典	8: 編集委(合評会) 9: 観光空間(オンライン) 15: 地理科学学会大会(広島大東広島キャンパス) 16: 地理思想(関西学院大大阪梅田キャンパス/ハイブリッド) 27: 常任理事会 29-30: 特別例会(鹿児島大稲盛ホール)
7月	5: 理事会④		5: 第5回			6: 理事会 6: 編集委
8月						4: 観光空間(オンライン) 6: 地理教育(奈良女大附属中等教育学校) 24-25: 日本地理教育学会(名古屋学院大) 24-30: IGC(ダブリン) 26: 大会発表申込締切
9月	13: 常任理事会④ 20: 理事会⑤	●: 大会準備委(第2回)	6: 第6回		●●●日本地理学会大会(弘前大)	7: 大会準備委 7: 編集委 14-16: 日本地理学会大会(南山大) 16: 常任理事会(日本地理学会と日程重複のため) 21: 理事会
10月	4: 常任理事会⑤ 11: 理事会⑥		77巻3号発行			5: 常任理事会 12: 理事会
11月		15-16: 大会(同志社女子大)	8: 第7回	15or16: 大会部会アワー		9: 編集委 23-24: 大会(近畿大)

会計委員会: 国際地理オリンピック寄付

企画委員会: 2024/25年度 若手研究者国際会議派遣助成

第25回 人文地理学会 学会賞選考

<収入の部>

科目	2023/24年度 予算	2023/24年度 決算	執行率	差額
会費	¥11,000,000	¥10,132,762	92.1%	¥-867,238
出版物売上	¥700,000	¥662,478	94.6%	¥-37,522
雑収入	¥150,000	¥172,486	115.0%	¥22,486
大会収入(参加費・広告)	¥800,000	¥1,416,000	177.0%	¥616,000
受取利息	¥500	¥673	134.6%	¥173
未払い費用(選・名)	¥200,000	¥200,000	100%	¥0
計	¥12,850,500	¥12,584,399	97.9%	¥-266,101

<支出の部>

科目	2023/24年度 予算	2023/24年度 決算	執行率	差額
雑誌生産費	¥4,000,000	¥3,572,100	89.3%	¥427,900
雑誌期首棚卸高		¥1,285,533		
雑誌期末棚卸高		¥-1,559,052		
編集費	¥150,000	¥89,867	59.9%	¥60,133
雑誌発送費	¥640,000	¥661,150	103.3%	¥-21,150
集会費	¥200,000	¥142,517	71.3%	¥57,483
大会開催費	¥1,000,000	¥1,948,230	194.8%	¥-948,230
研究部会運営費	¥400,000	¥167,762	41.9%	¥232,238
創立記念事業費	¥80,000	¥4,300	5.4%	¥75,700
給料手当	¥2,500,000	¥2,958,839	118.4%	¥-458,839
保険料	¥450,000	¥545,561	121.2%	¥-95,561
旅費・交通費	¥200,000	¥160,260	80.1%	¥39,740
通信費	¥300,000	¥326,977	109.0%	¥-26,977
顕彰事業費	¥50,000	¥44,671	89.3%	¥5,329
企画・広報事業費	¥60,000	¥198,000	330.0%	¥-138,000
会合費	¥30,000	¥23,048	76.8%	¥6,952
選挙費	¥200,000	¥125,534	62.8%	¥74,466
選挙費積立金	¥0	¥0	-	¥0
諸印刷費	¥20,000	¥0	0.0%	¥20,000
名簿作成発送費	¥300,000	¥361,900	120.6%	¥-61,900
名簿作成発送費積立金	¥0	¥0	-	¥0
消耗品費	¥80,000	¥15,624	19.5%	¥64,376
機械借上費	¥100,000	¥60,513	60.5%	¥39,487
室料(家賃・光熱費)	¥1,260,000	¥1,237,513	98.2%	¥22,487
相談手数料	¥100,000	¥79,832	79.8%	¥20,168
寄付金	¥100,000	¥100,000	100.0%	¥0
若手研究者国際会議派遣助成	¥400,000	¥500,000	125.0%	¥-100,000
租税公課	¥70,000	¥70,000	100.0%	¥0
諸会費	¥50,000	¥50,000	100.0%	¥0
雑費	¥50,000	¥6,385	12.8%	¥43,615
予備費	¥60,500	¥0	0.0%	¥60,500
計	¥12,850,500	¥13,177,064	102.5%	¥-326,564
収支差額	¥0	¥-592,665		

<繰越金>

前期末純資産額	¥33,968,647
今期末純資産額	¥33,375,982

<収入の部>

科目	2024/25年度 予算
会費	¥10,800,000
出版物売上	¥700,000
雑収入	¥150,000
大会収入(参加費・広告)	¥800,000
受取利息	¥500
未払い費用(選・名)	¥0
計	¥12,450,500

<支出の部>

科目	2024/25年度 予算
雑誌生産費	¥4,000,000
編集費	¥100,000
雑誌発送費	¥600,000
集会費	¥150,000
大会開催費	¥1,000,000
研究部会運営費	¥400,000
創立記念事業費	¥30,000
給料手当	¥2,600,000
保険料	¥500,000
旅費・交通費	¥200,000
通信費	¥250,000
顕彰事業費	¥60,000
企画・広報事業費	¥30,000
会合費	¥20,000
選挙費	¥0
選挙費積立金	¥100,000
諸印刷費	¥20,000
名簿作成発送費	¥0
名簿作成発送費積立金	¥100,000
消耗品費	¥40,000
機械借上費	¥60,000
室料(家賃・光熱費)	¥1,260,000
相談手数料	¥130,000
寄付金	¥100,000
若手研究者国際会議派遣助成	¥500,000
租税公課	¥70,000
諸会費	¥50,000
雑費	¥50,000
予備費	¥30,500
計	¥12,450,500
収支差額	¥0

3. 2024/25 年度 収支予算

1. 2023/24 年度 決算

決算報告書

第9期

自 2023年10月 1日

至 2024年 9月30日

一般社団法人人文地理学会

京都市左京区吉田河原町14番地
近畿地方発明センター合同ビル内

貸借対照表

2024年 9月 30日 現在

一般社団法人人文地理学会

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 ・ 純 資 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
現金及び預金	30,489,829	預り金	83,234
会 誌	1,559,052		
仮 払 金	10,335		
流動資産合計	32,059,216	流動負債合計	83,234
【固定資産】		負債の部合計	83,234
投資その他の資産		純 資 産 の 部	
保 証 金	1,400,000	基 金	0
その他固定資産合計	1,400,000	剰 余 金	33,375,982
固定資産合計	1,400,000	純資産の部合計	33,375,982
資産合計	33,459,216	負債及び純資産合計	33,459,216

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

①計算書類の作成基準

一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成している。

②資産の評価基準及び評価方法

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

会誌：最終仕入原価法による原価法

損益計算書

自2023年10月1日 至2024年9月30日

一般社団法人人文地理学会

(単位：円)

科目	金額	
(経常損益の部)		
【経常収益】		
受取会費	10,132,762	
事業収入	662,478	
受取負担金	1,416,000	
財務収益	673	
その他収益	172,486	
経常収益計		12,384,399
【経常費用】		
(事業費)		
期首会誌棚卸額	1,285,533	
会誌生産費	3,572,100	
期末会誌棚卸額	▲ 1,559,052	
大会開催費	1,948,230	
顕彰事業費	44,671	
若手研究者国際会議派遣助成事業費	500,000	
事業費計		5,791,482
(管理費)		
給料手当	2,958,839	
保険料	545,561	
集会費	142,517	
編集費	89,867	
研究部会運営費	167,762	
創立記念事業費	4,300	
旅費交通費	160,260	
通信費	326,977	
雑誌発送費	661,150	
企画・広報事業費	198,000	
会合費	23,048	
選挙費	125,534	
諸印刷費		
名簿作成発送費	361,900	
消耗品費	15,624	
賃借料	60,513	
地代家賃	1,237,513	
租税公課	70,000	
相談手数料	79,832	
寄付金	100,000	
諸会費	50,000	
予備費		
雑費	6,385	
管理費計		7,385,582
経常費用計		13,177,064
経常利益		▲ 792,665
(経常外損益の部)		
【経常外収益】		
選挙費積立金取崩額	100,000	
名簿作成発送費積立金取崩額	100,000	
経常外収益計		200,000
当期純利益		▲ 592,665

附属明細書

2024年 9月30日 現在

一般社団法人人文地理学会

1. 引当金の明細


(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
選挙費積立金	100,000	0	100,000	0
名簿作成発送費積立金	100,000	0	100,000	0

2024年10月5日

監 査 報 告

一般社団法人 人文地理学会

監事 秋山道雄 監事 内田忠賢 

2023/24年度の事業報告、計算書類、これらの附属明細書、その他理事の職務執行の監査について、次のとおり報告します。

1 監査の方法及びその内容

監事間の協議により、監査方針を定めた上で、庶務委員会、会計委員会の分野を中心に調査を行い、その結果を監事間で協議して、監査を実施しました。

具体的には、理事会その他の重要な会議に出席し、会計帳簿、会計書類、重要な決裁文書及び報告書を閲覧し、当法人の理事等から、職務の執行状況等について定期的に報告を受け、また、随時説明を求めました。

2 監査の結果

- (1) 事業報告及びその附属明細書は法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示しています。
- (2) 理事の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- (3) 当法人の業務の適正を確保するために必要な体制の整備等についての理事会の決議の内容は相当です。
- (4) 計算書類とその附属明細書は当法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しています。

以上

2. 2024～2026年 理事・監事選任

一般社団法人 人文地理学会 会長・理事・監事候補者（案）

（任期：2024年定時社員総会～2026年定時社員総会）

（50音順・敬称略）

会長候補者 矢野 桂司

第4回理事会（2024年9月21日開催）において、二村太郎選挙管理委員長より会長予備選挙（投票用紙発送2024年7月9日、投票締切8月1日、開票8月5日）の結果として報告があった。

監事候補者（2名）

秋山 道雄 内田 忠賢

理事候補者（21名）

大城 直樹	大呂 興平	香川 貴志	久木元 美琴
鍬塚 賢太郎	小島 泰雄	米家 泰作	佐藤 廉也
島津 俊之	関戸 明子	土屋 純	福田 珠己
藤井 正	藤塚 吉浩	三木 理史	矢野 桂司
山口 覚	山崎 孝史	山村 亜希	山本（有田）理佳
吉田 容子			

第3回理事会（2024年7月6日開催）において、二村太郎選挙管理委員長より理事・監事予備選挙（投票用紙発送2024年5月8日、投票締切6月5日、開票6月7日）の結果として矢野桂司を除く20名の報告があった。

矢野桂司は「一般社団法人 人文地理学会会長選出に関する規程」第6条2項の規定により、会長予備選挙の結果として理事候補者に加わるものである。

一般社団法人 人文地理学会 常任理事会・常任委員（報告）

（敬称略）

常任理事会

任期：2024年 定時社員総会・理事会～2026年 定時社員総会・理事会

会長（代表理事） 矢野 桂司

常任理事（業務執行理事）

島津 俊之（庶務） 三木 理史（会計） 米家 泰作（編集）

佐藤 廉也（集会） 山崎 孝史（企画・広報）

（ ）内は所掌委員会

常任委員

任期：2024年 定時社員総会～2025年 定時社員総会

庶務委員会： 島津 俊之* 網島 聖 北西 諒介

会計委員会： 三木 理史* 石田 曜 森田 耕平

編集委員会： 米家 泰作* 安藤 哲郎 浅田 晴久 新井 祥穂 稲垣 稜
大平 晃久 久島 桃代 小泉 佑介 後藤 拓也 杉山 和明
谷本 涼 中川 秀一 鳴海 邦匡 古田 昇 水野 真彦
本岡 拓哉 山口 覚

集会委員会： 佐藤 廉也* 大呂 興平 木村 大輔 丹羽 孝仁 花木 宏直

企画委員会： 山崎 孝史* 古関 喜之 佐藤 香寿実 関戸 明子

広報委員会： 山崎 孝史* 荒堀 智彦 渡邊 瑛季

*は常任理事